

## 式 辞（令和四年度卒業証書授与式）

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、本日は多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、この3年間、本当によく頑張りましたね。様々なことを制限されながらも、仲間とともにそれに耐え、乗り越えてきました。これまでの日々を振り返ってみると、思い通りにいかなかったこと、苦しい思いをしたことなども、きっとあったと思います。それでも、今、みなさんは立派にこの美山中学校を卒業し、義務教育の9年間を終えようとしています。繰り返しますが、本当によく頑張りました。

みなさんが美山中学校で学んだ数々のことの中で、一番心に刻んでおいてほしいのは、「自分と他人は違う」ということです。当たり前のことだと思いかもしれませんが、幼い頃は自分と他人の区別がうまくつかず、ただ自分の感情のままに、それを相手にも強要してしまいがちです。「自分がこう思っているのだから、わかるはずだ」とか、「自分が好きなものは、当然相手も好きなはずだ」とか。幼いうちは、とにかく「みんなで一緒に」とか、「できるだけたくさんの友達と仲良く遊ぶこと」を大事にしていたかもしれません。それに、家族には自分のわがままをぶつけても平気だったりしたかもしれません。

しかし、中学生になって、自分が大切にしていることと、他人が大切にしていることが違うことがよくあることに気がついたでしょう。自分はどうでもいいと思っていることを大切にしている人や、自分が大切にしていることをどうでもいいと思っている人がいることもあります。そうした価値観や得意不得意が違うということを中学校ではたくさん経験してきたはずですが。みなさんは、フィンランドとオランダとの交流を何度もしました。どちらの国の人も、「人はそれぞれ違うのだということ」を基本にして生きている。だから、お互いに足りないところや苦手なところを自然に補いあって生活する」のだと学びましたね。自分と他人は違うのですから、うまくいかないことがたくさんあります。他人と衝突して悩んだ人もいましたね。人と話すのが怖いという人もいますよね。でも、それは「自分と他人は違う」ということが分かっている証拠です。それをどう埋めればよいのかをみなさんは一生懸命美山中学校で学んできました。お互いの違いから生まれる誤解を埋めるのは、自分の気持ちや考えをしっかりと伝えることであり、相手の気持ちや考えをしっかりと聞いて受け止めることしかありません。思い切って踏み出して相手に歩み寄ってみると、ほんの少しでもお互いに理解できる部分があったり、ゆずれる部分に気づいたり、逆に、これはやっぱりゆずれないのだと自分に確信ができたり、ときには話してみると、とても信頼できる相手なのだとかわかったりもしました。まだまだ十分にはできないと思いますし、大人になっても、完璧にやりこなすことなど誰にもできません。ただ、コロナがどうであろうと、みなさんが美山中学校で過ごした日々の中で、こんなにも大切なことを学んできたのだということは間違いありません。これをベースにして、一生かかって、そのときどきの自分と他人との関係を学んでいけば良いのです。つまりいても、ぶつかっても、自分の気持ちを伝えることと相手の気持ちを聞くことを忘れなければ、みなさんならきっとやっていけます。大丈夫です。

それでも、あまりにも辛く苦しいことに出会っていると、人はまるで太平洋の真ん中に投げ出された小舟のように、この世のどこにも陸地など無いのだと思ってしまいかねません。しかし、この世は厳しくはあっても、そんなに捨てたものではありません。必ずたどり着ける陸地はあります。確かに今は世界中が混乱するような変化の多い時代ですが、どうかみなさんはしなやかに生き抜いてください。

とにかく生き続ける、それが何より大切なことですから。

保護者の皆様にはこの困難な状況の中、いつも学校の教育にご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今年度も、こんなにすばらしい卒業生を送り出せることを職員一同、とても誇りに思っています。

この喜びと、感謝と、激励の気持ちをお伝えすることをもって、私の式辞とさせていただきます。

令和五年三月七日

岐阜県山県市立美山中学校長